

令和7年第4回教育委員会定例会 議事録

1 教育長あいさつ

すっかり春らしい天候となってきましたが、花粉や黄砂の季節でもあります。岡山や愛媛では、山林火災が発生しており心配しています。例年よりこの時期の雨量がかなり少ないと報道しておりました。被害が広がらないことを祈るばかりです。

中学校及び小学校では、最も重要な行事の一つである卒業証書授与式が執り行われました。委員の皆様にもご協力いただき、教育委員会として告辞を届けていただき、ありがとうございました。12歳と15歳で迎えたこの春を感動の節目として心に刻んでいただけたものと思います。進学する新たな場所で、一人ひとりそれぞれの夢や希望の実現に向けて前進していただきたい。私も中学校1校小学校2校の式に臨席しました。担任による呼名への返事も大変立派であり、証書を受け取る姿も堂々としており大変厳粛な雰囲気での式でした。さらには、在校生の姿勢も大変立派であり、日頃の学校生活の様子がうかがえました。また、先週21日(金)に小中学校教職員の定期人事異動が発表されました。新たに採用される者、新天地に転勤する者、留任する者、職を辞する者、様々ですが、新年度の4月1日から気分一新して元気に職務に精励されることを願っております。市役所や教育委員会も既に発表されております。

令和7年第1回議会定例会が開かれ、先週の19日に令和7年度の当初予算が承認されて閉会となりました。一般質問の教育委員会関連では、国スポの意義や準備スケジュールについて、コミュニティ・スクール導入や進捗状況について、部活動の地域連携・地域移行について、第2次学校整備基本計画の見直しについて、が挙げられました。

本日の定例会も、慎重なる審議、また忌憚のない意見交換や質問をお願いいたします。

2 教育長の報告（別紙 教育長勤務報告のとおり）

3 議事録署名議員

○教育長

本日の署名委員は、福田委員と天倉委員にお願いします。

4 議決

① 教育委員会職員の任命について

○大石課長より説明

令和7年4月1日付 市職員の人事異動に伴うもの
異動者3名・転任者4名(内新規採用者1名)

<委員からの意見・質疑なし>

<全員一致で承認>

② 指定校変更(校区外就学許可)について(在校生分)

○大石課長より説明

変更理由)許可基準4「共働きで、希望校の校区内に保護者または保護者に代わるものがある場合」

<委員からの意見・質疑なし>

<全員一致で承認>

③ 江津市教育委員会文書管理規則及び江津市教育委員会処務規則の制定について

○大石課長より説明

どちらの規則も文書管理システム導入に合わせた規則の制定。

「江津市文書管理規則」については、4月から文書管理システムが導入され、これまで紙で回していた稟議書などがシステム上で確認、決裁できるペーパーレスシステムになることに伴い、市長部局においてこのシステムに対応できるよう「江津市文書管理規則」が制定されることから、教育委員会でも同様に規則を制定するもの。

「江津市教育委員会処務規則」については、「江津市教育委員会文書管理規則」の制定に伴い、現在の「江津市教育委員会事務局処務規程」から、文書に関する規定を削除して新たに制定するもの。

<委員からの意見・質疑なし>

<全員一致で承認>

5 報告事項

① 指導主事の体制について

○大石課長より令和7年度の指導主事の体制について説明

県から派遣される指導主事については2名までと定められており、江津市においても令和5年度から2名体制となっている。来年度は新たに市が単独で1名指導主事を任用し、部活動の地域移行や教員の働き方改革及び不登校対応などの生徒指導を担当していただく予定。

<委員からの意見・質疑なし>

② 心の相談箱の投函に係る対応等について

○大石課長より説明

3月は各中学校とも投函なし。

相談箱については、教職員ではなく市の教育委員会に直接声を届ける仕組みとして、平成24年から中学校に設置している。週1回、教育委員会職員が学校の管理職立会いのもとで、箱の中を確認していたが、今年度で相談箱は廃止とし、代わりの相談機能として、タブレットを活用して、心の相談箱を実施する予定。

<委員からの意見等>

○岡田委員

中学生だけを対象とするのか。できれば小学生も対象としてほしい。

○大石課長

現段階では、中学生のみを対象と考えているが、今後は小学校にも範囲を広げることも考えていきたい。

③ 江津市立中学校拠点校部活動実施要綱の制定について

○大石課長より説明

部活動の拠点校方式を実施する場合の実施要綱を策定。拠点校方式とは、自分の学校に入りたい部活動がない場合、他校の部活動に参加できる形態。差し当たって4月からの利用はないが、希望者が出了場合すぐに対応できるよう要綱を定め、体制を整えておくもの。希望者は基本的にスクールバスで送迎する予定。

<委員からの意見・質疑なし>

④ 江津市立中学校における部活動の地域連携・地域移行に係る方針について

○大石課長より方針の説明

(1) 地域連携・地域移行については、令和12年開催の「島根かみあり国スポ・全スポ」を見据えて、そこまですを目安として検討し、構築していくこと。

(2) 平日及び休日における全ての部活動対象として、実態や状況に応じた地域連携・地域移行を進めていくこと。

(3) 部活動によっては、これまで通り当面継続できる見通しがある場合は、移行や体制変更をしないこともあり得る。

という3つの基本方針のもと進めていく。その他、役割分担、指導者の確保、費用負担の考え方などの現時点での方針を定めている。

部活動の地域連携・地域移行は、地域の受け皿が乏しい江津市にとっては非常に難しい課題だが、当面この方針に沿って、できるところから進めていきたいと考えている。

<委員からの意見等>

○岡田委員

保護者にはどこまで周知しているのか。

○教育長

部活動地域連携検討協議会の委員には市内の中学校長も参加しているので、中学校の立場の意見も反映された方針になっている。

方針については、江津市のホームページにも掲載している。また、4月の小・中学校のPTA総会などでも校長先生方から説明していただき、部活動の地域連携・地域移行を進めていることを保護者の方にもご理解いただきたいと思っている。

競技や種目によって負担額も異なってくるのが考えられるので、校長先生方としっかり連携して、部活動の地域連携・地域移行によって保護者の経済的負担が過重にならないよう、市教委としてサポートできる部分をしっかり検討していきたい。

○岡田委員

なかなかその辺のバランスをとるのは難しいと思う。

また、どうしても試合で勝ちたいという子もいれば、親もどうしても勝たせたい方もおられる。

○佐々木委員

そうでもない(勝ち負けにこだわらない)子も当然いる。

○教育長

方針の記載の中には勝利至上主義にならないようにということも書かれているが、努力して勝ちを目指すことも大事だし、勝ちだけに固執するのもどうかと思う。その辺のバランスが大事になってくる。

今後、新たな地域クラブや拠点校が増えるようであれば、この定例会の場でも報告していきたい。

○岡田委員

色々な部活動がある中でどうして柔道が来年度から地域クラブに移行することになったのか。また他にも移行する予定の部活動はあるのか。

○大石課長

柔道は受け皿があったということで移行がしやすかった。しかし、地域クラブへの移行というのはなかなか難しい。バスケットは今、受け皿的なものができている。

○岡田委員

浜田の硬式野球チームには広範囲から中学生が来ているようだ。

○福田委員

中学生が学校の部活動ではなく、他のクラブチームに入ることによって、中学校での部員の人数が足りないところも出てきている。チームが組める人数が残っていればまだよいのだが・・・。

○教育長

保護者の中には順番で送り迎えをしてでも子どもに強いチームでやってほしいと思う方もおられる。

○福田委員

必ずそうではないかもしれないが、クラブに入って勝ちを目指して熱く練習している子どもたちと、学校で部活動を楽しみながらやりたい子どもたちが戦った時に勝負の差が出てくる。

○岡田委員

たしかに圧倒的な実力の差が出る可能性はあると思う。

○佐々木委員

これからは、部活動が学校教育の一環という形は崩れると思う。

強くなりたいという気持ちは、それはそれでいいかもしれないが・・・。

○教育長

今後クラブに移行してくると、学校名ではなく、クラブで出場することになる。

以前は、学校の代表としての意識が強く、大会前には壮行式を行い、学校代表として送り出すという感じがあったが段々そうではなくなっている。

○福田委員

今後はだんだん部活動がなくなってくるのでは。

運動部だけでなく、吹奏楽なども人数が減ってきている。

楽器代も高いので、財政的なことなどを考えると、他の学校と一緒にやる方がいい感じはする。

○岡田委員

現在いる中学校の部活動指導員の中にはクラブに移行しても引き続き指導してくれる方はおられるのか。

○大石課長

指導員は何名かおられるが、全面的にやったださる方はなかなかいない。

○福田委員

自分が権限を持ってやることになると、なかなか難しいのでは。

○教育長

江津市内の中学校には、部活動指導員や地域指導者がある程度おられ、その方々が放課後部活動を見ていただけるので、教員も大変助かっていると学校現場から聞いている。

○大石課長

部活動指導員は、教員がいなくても、生徒を引率して大会や練習試合に行くことができる。

今年度は、部活動指導員が13名、地域指導者が17名合わせて30名おられ、他市に比べるとある程度確保できている。

また、江津市では令和6年度から部活動指導員の方に大会引率の旅費も予算化している。

○岡田委員

練習試合の相手を見つけようと思っても、結構遠方に行くことも多いので経費がかかる。

○教育長

試合等で負けることは悔しいがそのような経験をして強くなるということも言える。

○佐々木委員

両方のバランスが大切なのは。

○教育長

今後もこの定例会の場でも、部活動の地域連携については意見交換を行っていきたい。

⑤ 江津市水ふれあい公園水の国設置及び管理に関する条例を廃止する条例について

⑥ 松林宗恵映画記念館設置及び管理に関する条例を廃止する条例について

⑦ 江津市桜江体育施設設置条例の一部を改正する条例について

○大石課長より説明

いずれも3月の市議会に提案され、原案の通り議決された。既に3月19日に施行されている。

<委員からの意見・質疑なし>

【追加】

遊具の修繕について

○福田委員

以前、教育委員会定例会の中で、高角小学校のブランコの修繕をお願いしたが、早急に対応してもらったようで、とてもよかった。子どもたちも休み時間になると率先してブランコを使い、非常に喜んでいるようだ。他の学校の遊具の修繕についてはどうか。

○大石課長

今年度予算がついたものについては対応を行った。

来年度以降も予算がついたものについては、早急に対応していきたい。

市内小・中学校の卒業式について

○天倉委員

小・中1校ずつに参加したが、子どもたちが大変落ち着いていて温かい式だった。

今年度、校長先生方を中心に、各学校が非常に良い取り組みをしてくださったのではないかと感じている。

午後3時17分終了